「今月の1枚」

ケヤキヒトスジワタムシが羽化脱出して、空っぽになった虫こぶ
（2014年5月27日採集・撮影）

虫こぶの中に残されていたケヤキヒトスジワタムシ有翅虫（死亡個体）
（2014年5月27日採集・撮影）

ケヤキハフクロフシ

　新緑のまぶしい季節となってまいりました。そんな中、ケヤキ（ニレ科：*Zelkova serrata*）の葉の上に写真のようなとっくり型の奇妙な「こぶ」が多数出来ていました。写真は「ケヤキハフクロフシ」という虫こぶ（虫えい、ゴール）の一種です。「フシ」とは虫こぶの意味で、「ケヤキ」の「葉」に「袋」

上の「フシ」を作るのでこのような名前が付けられています。

　この虫こぶはケヤキヒトスジワタムシ（カメムシ科　*Paracolopha morrisoni*）というアブラムシの一種がケヤキの葉の中にもぐり込み、ある種の刺激を与えることによって植物体の組織や細胞に奇形をもたらし、写真のような奇妙な「こぶ」を作り出します。虫こぶの中でケヤキヒトスジワタムシは成長し、初夏の頃にはこの虫こぶから羽化脱出し、次はササ類に移住します。秋には再びケヤキに戻って卵で越冬します。

　虫こぶを作る昆虫類は多数いますが、どのようにこんな奇妙な形を作るのか、どうして季節によって過ごす植物を変えるのか、まだ完全に解明されていません。ケヤキのような造園木にとっては見た目が悪くなる「害虫」ですが、このとっくり型のこぶを見つめると生き物の不思議を感じるかと思います。

（写真・文：2014年5月6日　高知市内にて撮影・松本剛史）

（No.244　2014.5.7　掲載）